★地域とともにある学校づくりを目指して★

黒部市コミュニティ・スクール通信　Vol.10

例年よりも暑い夏休みが終わり、いよいよ２学期がスタートします。各小中学校では、コミュニティ・スクールとしての１学期の活動を振り返るとともに、２学期に実施予定の活動が充実するよう準備を進めています。今後も合言葉の「**ち：力を合わせ、い：生き生きと、き：希望をもって**」の具体化を目指し、歩みを進めていきます。

令和７年度　学校運営協議会に関する研修会

７月２５日（金）黒部市立明峰中学校さくらホールにて、前文科省 CS マイスター大山賢一先生をお迎えして「学校運営協議会に関する研修会」を行いました。当日はお忙しい中、そして暑い中、多数の皆様に参加いただき感謝いたします。



齊藤教育長より、「今日の研修でインプットされたことを学校でアウトプットすることで、子供や教員の笑顔が増えるよう、そして地域の皆様にもやりがいをもって学校に関わっていただけるよう進めていきたい。」との挨拶がありました。

その後、大山先生の「地域学校協働本部とコミュニティ・スクール」と題した講演を拝聴しました。

黒部市のコミュニティ・スクールはスタートしている。これからは地域学校協働本部を立ち上げてほしいことを踏まえ、学校運営協議会と地域学校協働本部の違い等を示唆されました。

富山県と黒部市は同じ人づくりを目指しており、それを踏まえた学校の教育目標はより具体的に示し、学校・家庭・地域みんなが共有しなければならない。そして、地域・保護者が、自分たちの学校という当事者意識をもたなければならない。

活動を進める中で、学校組織のマネジメントが必要である。よく PDCA サイクルが挙げられるが、P（計画）ではなく、目標から進めたい。また、C（評価）は、教育の場合はすぐに評価できるものではない。大山先生の APDEI トルネード『A（aim 目標）→P（plan 計画）→D（do 実行）→E（evaluate 評価）→I（improve 改善）である。目標は抽象的でなく具体的に、計画はわかりやすく、実行はみんなで、評価は多面的に行いたい』という考えを紹介された。

リーダー（校長）のマネジメントが重要になる。地域やＰＴＡでは、こんな子供に育てたいといった具体的な目標、活動の方針・計画等を改善していく評価システムを工夫ながら進めてほしい。ボランティアの人も「できる人が、できるときに、できることを、無理せずに」楽しくやってほしい。楽しいと負担なく、長続きする。いい街住んでいる皆さんの活躍を願っている。と締めくくられました。

令和７年８月２６日発行

発行：黒部市教育委員会 学校教育課　コミュニティ・スクール担当　℡：0765-54-2701